

## オガサワラカワラヒワの保全対策（林野庁）

母島列島では近年オガサワラカワラヒワの観察数が減少しており、絶滅が危惧されています。

このため、カワラヒワの主要な繁殖地である母島属島において、保全のための外来ネズミ駆除対策を実施しました。

カワラヒワの繁殖期の3月上旬から6月上旬にかけて、繁殖地とその周辺を対象としネズミの駆除を実施しました。

最初にかご罠でネズミの数を減らし、以降は殺鼠剤を用いたベイトステーションでネズミを低密度に維持する事を目指しました。

寒冷紗をかけたかご罠



実施にあたってはネズミ以外の生物への配慮が必要であるため、鳥類が間違っに入ってしまったときのためにかご罠を寒冷紗で覆う、鳥類が入りにくい様にベイトステーションの入口には塩ビ管を設置するなど、対策を行いました。

対策によるネズミの増減を確認するため、駆除前の2月下旬～6月上旬にかけてセンサーカメラを設置し、モニタリングを行っており、その結果が右のグラフとなります。

①でかご罠を実施したことにより、ネズミの撮影頻度が大きく減少しました。その後すぐにベイトステーションの稼働を始めましたが、すぐには餌が減らず撮影頻度は上昇しています。この間、入口の形状変更や誘引餌を工夫するなど試行錯誤した結果、③から殺鼠剤が減り始め、撮影頻度も低下しました。撮影頻度が底を打った頃から、また殺鼠剤が減りにくくなりましたが、撮影頻度は最後まで下がったままのため、低減効果は持続していると思われます。また、④、⑤の時点では現地でのカワラヒワの目視確認ができました。



結果として、ネズミの減少は見られたところですが、依然としてカワラヒワの危機的な状況に変わりはないため、今後とも関係機関と連携し、可能な対策から行う必要があると考えます。



入口の形状変更と煮干しで誘引



カメラに写ったネズミ